

『開発設計活動に有効なテクノロジーマネジメント手法について』

こんにちは。

中小機構の行う販路開拓支援のひとつに J-GoodTech(ジェグテック)がありますが、そのネーミングの由来を存知でしょうか。答えは、技術立国日本を強固に支える中小企業の技術にフォーカスして、“Japan Good Technology”、そしてそれを短縮して J-Good-Tech…「ジェグテック」なのです!!

…さて、前置きはこの辺で、今回は、開発設計活動に有効なテクノロジーマネジメント手法についてご紹介します。すでに様々な手法開発され広く活用されていますが、代表的なものとしては、

-
- ・ TRIZ(発明的問題解決理論)
 - ・ Quality Function Deployment(品質機能展開)
 - ・ FTA(故障の木解析:Fault Tree Analysis)
 - ・ FMEA(故障モード影響解析:Failure Mode and Effects Analysis)
-

などがありますが、今回はこの中で、特に TRIZ について、簡単にご紹介します。

TRIZ とは、ロシア語の Teoriya Resheniya Izobretatelskikh Zadatch の頭文字ですが、技術的課題解決技法で、従来技術の延長での改良ではなく、発明的な新しい発想を導き出すという手法です。この理論は、旧ソ連の特許審議官の G アルトシュラーという方が、審議官として何十万件という特許事例を分析した過程で発見した「発明の法則」をベースにして発展したものです。具体的には、過去の特許は、分野に関わらず、共通のパターン、原理で解決されている。すなわち、その原理を課題解決に適用することにより容易に解決できるというもので、あらゆる観点からもれなくアイデアを創出することができる手法です。

よく知られた話ですが、特にこの TRIZ を全社的に取り入れたのが韓国のサムスングループです。同グループはロシアから TRIZ の専門家を招へいして積極的に導入することで様々な成功事例を生み出したとされています。もちろん日本でも、自動車、電機、化学など、様々な業界で活用されています。特に特許のアイデア出しの際に頻繁に活用されているようです。

かつて、戦国時代に織田信長が長篠の戦いにおいて、それまで槍や刀が主力であった戦闘に、鉄砲という新たな武器を導入して敵を圧倒したというのは有名な話ですが、このように TRIZ のみならず、新たな手法、考え方を自社の従来のビジネスに取り入れることで、製品開発、ビジネスモデル、などを飛躍的に発展させるきっかけとなるかもしれません。TRIZ に関しては、さまざまな書籍が出版されていますので、さらに興味を持たれた方はどんなものか一度調べられたらいかがでしょうか。

参考に、NPO 法人日本 TRIZ 協会のリンクを掲載します。

<http://www.triz-japan.org/index.html>

(ジェグテック コーディネーター N.S)